

(別紙5)

整理番号 2024P-432
補助事業名 2024年度 緊急的な対応を必要とする事業への支援 補助事業
補助事業者名 一般社団法人 四番隊

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

令和6年7月25日から梅雨前線に伴う大雨により、秋田県南部、山形県北部は甚大な被害に見舞われた。山形県においては、同日13:05酒田市、遊佐町に大雨特別警報発令、23:40に酒田市、庄内町、鮭川村、戸沢村、新庄市、舟形町に大雨特別警報発令。酒田市においては1日に2回大雨特別警報が発令される異例の大雨、25日～27日の合計降水量は一時孤立した酒田市大沢地区で昨年7月分の3倍以上に相当、1名が亡くなった。

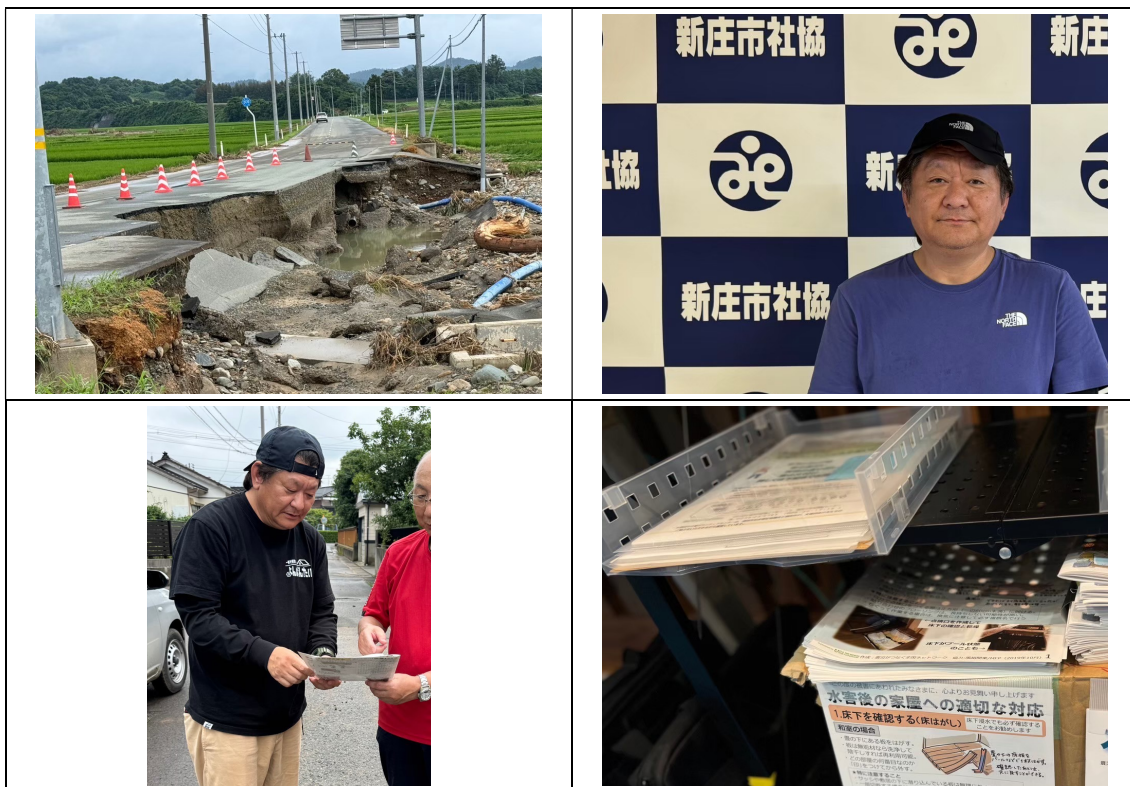
酒田市大沢地区や観音寺地区(旧八幡町地域)は近くを流れる荒瀬川が氾濫、大量の土砂が流れ込み、家屋の1階部分の半分以上を覆い隠すとともに、家屋をえぐり取り、部分消失。幹線道路は寸断され、川沿いのアスファルトには亀裂が走り、崖のように削られた箇所や、橋が崩壊し、たもとには土砂や流木、汚泥の堆積と住宅の埋没、大量の土砂や田畑には無数の大木が散在していた。

災害が少ないと言われ続けてきた地域での、未曾有の災害において、ボランティア団体として、災害ボランティアセンターの運営補助、ニーズ調査、現地調査、ボランティアのコーディネート、片付け、床剥し、泥出し、壁剥し等を実施、被災者に寄り添った支援活動を行います。また、他団体や社会福祉協議会と連携を図り、技術面での指導も実施し、地元ボランティアの育成を図り、少しでも早期復旧につなげることを目指した。

(2) 実施内容

・現地調査

発災翌日の7月26日に現地に向かい、7月27日28日に秋田南部(横手市、由利本荘市、にかほ市)および山形県北部(酒田市、遊佐町、新庄市、舟形町)にて現地調査を実施。各市町の社会福祉協議会を回り、情報共有、情報提供とともに水害時のパンフレットを手配(震災がつなぐ全国ネットワークより郵送)。被災状況の確認と今後の支援活動の計画を進めた。



・災害ボランティアセンター運営補助

酒田市災害ボランティアセンターの運営補助を実施。オリエンテーション時に熱中症予防対策について指導し、ボランティア参加者の安全確保に努めた。ボランティアのコーディネートを行い、参加者の役割分担を調整した。特に夏場の活動において懸念された熱中症のリスクについては、酒田市災害ボランティアセンターからも相談を受け、対策を強化した。「建設業等における熱中症予防指導員および管理者研修講師」の資格（建災防 修了証番号1418）を有している弊社代表の伊藤は、この知識を活かして、初めてボランティアに参加する方々への安全注意事項や作業内容の説明を担当した。さらに、ボランティア活動に関する注意点を徹底指導し、作業中のリスクを最小限に抑えるためのリスクアセスメントを実施した。

また、ボランティア参加者へ配布する物資の仕分けを行い、クーラーボックスに水や塩飴、おしぼり、マスク、軍手などを準備した。泥出し作業に必要な一輪車やスコップなどの資機材の仕分けも行い、作業が円滑に進むよう整えた。災害ボランティアセンター閉設時には、使用した資機材の返却作業を行い、酒田市から新潟市へのトラック輸送を担当した。

(別紙5)



・ニーズ調査

一軒ずつ訪問し、被災者の具体的な要望や問題点を把握した。



・浸水家屋の家財搬出、被災ゴミの仕分け運搬

(別紙5)

・作業前の事前養生作業

一般ボランティアが作業しやすいよう動線確保や、家屋や家財の棄損、汚損防止のための養生を実施。

・泥かき、泥出し、土砂撤去、断熱材や床材の洗浄消毒作業

・床剥がし、壁剥がし、断熱材除去、サーキュレーター設置乾操作業



(別紙5)



- ・作業家屋の事後訪問
- ・ボランティア参加者への技術指導および安全教育
電動工具の使い方、浸水家財の搬出方法（腐敗してしまった畳や布団類）廃棄家財の解体方法、体調不良時の対応法などを指導。



2 予想される事業実施効果

山形県酒田市において、酒田市社会福祉協議会と連携して行われた災害ボランティアセンターの運営は、今後の災害時には迅速かつ円滑な対応が期待される。酒田市はこれまで大規模な災害を経験しておらず、ボランティアセンターの設置・運営も初めての試みであったが、今回の経験を通じて、運営ノウハウが今後の災害対応力の向上が見込まれる。

(別紙5)

ボランティア文化が地域に広がり、最初のころは個々でのボランティア参加者が多かったが、ボランティア参加者同士の小さなグループやチームが名前を付けた新たな団体がいくつかできた。ボランティア活動を初めて経験した市民も多く、支援活動を通じて地域コミュニティの結束が強まることが期待される。

また、熱中症対策に関する指導が行われたことで、安全な作業環境の確保が徹底され、今後の災害対応におけるリスクアセスメントが向上することが見込まれる。ボランティア活動においては、熱中症対策のほかにも、作業の効率化や安全管理が重要であり、これらの知識が地域に広がることで、今後の活動の質が向上すると考えられる。

今後は、被災地において物資の提供や家屋の修繕作業などの物理的な支援に加え、被災者の心のケアにも重点を置く必要がある。災害後、心の平穏を取り戻すことが難しい状況に直面する人々は少なくない。そのため、私たちはボランティア活動を通じて被災者一人ひとりに寄り添い、彼らの気持ちに耳を傾けることを大切にする。地域住民が安心して日常を取り戻せるよう、継続的な支援を行いながら、精神的なケアの充実を図るとともに、復興への道のりをともに歩む姿勢を持ち続けることが重要である。

3 補助事業に係わる成果物

(1) 補助事業により作成したもの

該当なし

(2) (1) 以外で当事業において作成したもの

該当なし

4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 一般社団法人四番隊（ヨンバンタイ）

住所： 〒299-0263

千葉県袖ヶ浦市奈良輪319-506

代表者： 代表理事 伊藤 純（イトウ ジュン）

担当部署： 事務局（ジムキョク）

担当者名： 事務担当 榎森 裕子（エモリ ユウコ）

電話番号： 050-3637-0197

F A X:

E-mail: ito019756@gmail.com

U R L: <https://yonbantai.com/>